

第19回宝塚市子ども議会

質問・要望事項への対応状況について



平成31年（2019年）3月

宝塚市

目次

宝塚小学校	6年	中山 翔太	・・・1
長尾小学校	6年	野口 大清	・・・2
西谷小学校	6年	今中 心彩	・・・3
西山小学校	6年	柴崎 日菜子	・・・4
逆瀬台小学校	6年	郡谷 朋果	・・・5
末広小学校	6年	中村 亜依未	・・・6
雲雀丘学園小学校	6年	山下 哲平	・・・7
安倉北小学校	6年	林 知里	・・・8
すみれが丘小学校	6年	濱田 望来	・・・9
宝梅中学校	3年	横井 乃々花	・・・10
高司中学校	3年	新城 璃乃亜	・・・11
南ひばりが丘中学校	3年	崎山 大志	・・・12
中山五月台中学校	3年	田村 慧智	・・・13
宝塚西高等学校	2年	山本 真衣	・・・14
雲雀丘学園高等学校	2年	細見 茉由	・・・15

担当部：環境部（生活環境課）

議員名	中山翔太	テーマ	宝塚小学校登下校路にあるきつえん所のマナーについて
-----	------	-----	---------------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

栄町に住む宝塚小学校の児童は、登下校時にJR宝塚駅前を通ります。そのJR宝塚駅前には喫煙所（きつえんじょ）があります。その前を通る時のにおいや煙に毎日困っています。毎日、通行者が煙を吸っていると体が悪くなるんじゃないかと思っています。そこで、市の人に登校の時に立ってもらい、たばこを吸おうとしている人を止めてもらいたいです。それでも無視して吸う人がいたり、悪い言葉をいう人がいて、子どもに悪影響になる場合は、阪急宝塚駅にも喫煙所はあるので、JR側の喫煙所を取り壊して欲しいと思っています。

答弁：

宝塚小学校登下校路にある喫煙所のマナーについてですが、宝塚市では、たばこの吸い殻を無くし綺麗（きれい）なまちにすることと、歩いている人、特に子どもたちがたばこの火で火傷などの怪我（けが）をしないように2015年7月に「ばい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」を作りました。

宝塚駅前や花のみち周辺では喫煙所以外でたばこを吸うことを禁止し、人通りの多い場所でたばこの火による被害をなくすようにしています。しかし、ただ禁止するだけでなく、たばこを吸う人のために、たばこを吸う場所を作って、そこを利用してもらうことで、たばこを吸う人と吸わない人が共に生活しやすいまち宝塚をつくるために必要であると考え、2015年7月に阪急宝塚駅側、2016年11月にJR宝塚駅側の2カ所に喫煙所を作りました。

JR側の喫煙所については、阪急側の喫煙所よりも煙などが歩道部分に広がらないように、入口を横から入るようにしたり、パネルの高さを高くするなど工夫しています。

また、通学時間帯の利用について配慮（はいりょ）していただくように張り紙をし、利用者に協力をお願いしています。

次に、JR側の喫煙所の取り壊しについてですが、喫煙所はたばこを吸う人のためには必要な設備ですので撤去（てっきょ）は考えていませんが、たばこの煙やにおいが通学路側に広がらないように、また喫煙所の中へ入って吸ってもらうように、大きなシールを地面に貼るなどして啓発（けいはつ）できないか検討（けんとう）していきます。

その後の対応状況：

たばこの煙が喫煙所からもれてこない様にきちんと喫煙所の中で吸ってもらうために、大きなシールを地面に貼りました。また喫煙所の中の形もすこしでも煙がもれて出てこない様、奥のほうで吸ってもらう様に変えています。

担当部課：管理部（教育企画課、施設課）

議員名	野口大清	テーマ	学校設備について
-----	------	-----	----------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

学校のテレビが小さくてあまりよく見えません。そこで、大きなテレビを捨てようとしている人から、そのテレビをもらい、それを学校に移そうと思います。また、僕らの学校は全校生徒が体育館に集まるとギュウギュウなので体育館を広くしてほしいです。それに、体育館のステージにほこりがいっぱいあって汚く、体育館のトイレも臭いので、一年に一回、体育館をきれいにする活動をしたいと思います。その時に、トイレにも電気を付けたり、トイレを工事してほしいです。

答弁：

まず、学校のテレビにつきましては、現在、市内の全公立小学校に大型テレビを3台ずつ配置（はいち）し活用しています。順次、大型のデジタルテレビへ更新（こうしん）を行って予定ですが、テレビ以外にも整備（せいび）が必要なものがたくさんあり、限りある予算の中で工夫をしながら、少しずつ配置を進めていきます。

なお、いろいろな所から不用になったテレビをもらって使うというご提案については、学校に配置するテレビは接続方法や明るさや見える角度に配慮（はいりょ）する必要があり、いただいたテレビが活用できない場合や古い機種（きしゅ）であれば故障した時の対応ができない場合があるため、現状では難しいと考えています。

次に、長尾小学校の体育館につきましては、在校する児童数にしては狭く、改善（かいぜん）するために建替えたいと思っておりますが、市内には老朽化（ろうきゅうか）して建替えが必要な体育館が他にもあり、限られた市の予算の中で、一度に建替え工事を行うことはできないため、国に対して費用を補助してもらえるようお願いし、早く取り組めるように努力しています。

そして、体育館のトイレについては、校舎内のトイレと比べると暗く感じますので、照明を増やすことを検討（けんとう）しています。

また、ひびが入ってしまった洗面台については、周りの壁や床に割れている箇所がなく、水漏（みずも）れがないことから、修理の必要はありませんでした。トイレの水を流すボタンの汚れは、ふき取れば、きれいになりましたので、皆さんも気がついた時には、ふき取って下さい。学校で修理ができないものは、学校から教育委員会に連絡をもらって修理することになっています。

その後の対応状況：

公立小学校の大型テレビについては、2018年度中に1校で放送機器のデジタル化と合わせて15台整備するとともに、2校で3台ずつ新たに整備する予定です。

長尾小学校の体育館トイレの照明については、特に暗いと思われる男子トイレの個室に照明を設置する予定です。

担当部課：都市安全部（公園河川課）

議員名	今中心彩	テーマ	西谷夢プラザのそばに公園を作ることについて
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は、西谷夢プラザのそばに、みんなが集える公園を作る事を提案します。現在、私の通っている西谷小学校は、全校生徒90人の小さな学校です。今年の1年生は、9人でした。このままだと、どんどん減って学校がなくなってしまうかもしれません。私たちが大人になっても西谷小学校に、元気な子どもたちの声が響（ひび）いているようにしたいです。そのためには、今西谷に住んでいる人たちが楽しいと思える西谷地区にしたいのです。西谷には、子どもたちが遊べる公園が少ないです。西谷の夢プラザの近くに、芝生があり、ブランコや鉄棒、すべり台などの遊具で遊べる公園があれば、子どもたちや大人たちも楽しい時間を過ごす事ができます。西谷には、色々な特産物があります。西谷でできるお米はおいしいですし、いちごもとても美味しいです。きれいな公園でたくさん遊んで、夢プラザで西谷のおいしいものを買ったり食べたりできたら賑やかで、楽しい西谷の中心になると思います。			
答弁： 西谷夢プラザのそばに、みんなが集える公園を作ってほしいというご提案につきましては、今、西谷地域には、市が地域などに遊具を貸し出して、神社の境内（けいだい）や自治会館（じちかいかん）の敷地内（しきちない）に設置（せっち）している、子ども遊園と呼ばれる公園が10カ所あり、広い西谷地域にまんべんなく配置（はいち）されています。 今回、子どもたちがのびのびと遊べるように、西谷地域の中心である西谷夢プラザの広場などに新しく遊具を設置して、西谷夢プラザの広場やその周辺の空き地を新たに子ども遊園に位置付けるなど、より西谷地域が楽しくなるような公園を造れるよう、自治会にお伝えし、地域の方々のご意見をしっかりと伺って、新しい遊具を設置することを検討したいと思っております。			
その後の対応状況： ご提案いただいた内容について検討し、「（仮称）西谷子ども遊園整備事業」として2019年度の予算要求を行いました。残念ながら予算化されませんでした。 今後も、皆さんに楽しんでもらえる公園づくりができるよう努めていきます。			

担当部課：学校教育部（教育研究課）

議員名	柴崎日菜子	テーマ	パソコンの授業をふやすことについて
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は学校でパソコンの授業を多くし、パソコンにふれる機会を増やすことを提案します。なぜなら公立の学校ではパソコンを使った授業が非常に少なく、生徒が大人になったときに、コンピュータを使うことに苦労するからです。まず、最初の質問です。パソコンの授業は小学校だと何年生から始まりますか？次にパソコンの授業はどのくらいの頻度（ひんど）でありますか？外国ではもっとたくさんパソコンを使っています。そして私が問題だと感じているのは、パソコンの台数です。今、小学校では1台あたり3.6人が使うことを文部科学省は目標としているのに、実際は1台あたり7.0人なので、パソコンの台数が少なすぎると思います。これらのことから私は、パソコンの台数を増やし、小学1年生からパソコンを使い始め、パソコンの授業を頻繁（ひんばん）に行うことを提案します。			
答弁： 小学校におけるパソコンを使った授業は、低学年から計画的に行っています。低学年ではパソコンの各部分の名称やマウスの使い方など、パソコンの基本を学びます。また、中学年では文字の入力を学び、高学年で文章作成や調べ学習に活用するほか、それぞれの学年にあったソフトでの学習も進めています。 次に、パソコンを使った授業の頻度については、どの学年の授業においても、授業内容に応じて効果的な場面で使っていますので、各学校によって違います。今年の4月から学校のコンピュータ教室のパソコンが新しくなり、授業でより使いやすい環境が整いました。先生向けの研修会も実施しましたので、今まで以上に快適にパソコンを使った授業が実施できると思います。 現在の宝塚市の公立学校におけるパソコンの台数は、文部科学省の水準（すいじゅん）とする目標台数に対して不足している状況です。そのため、現在も文部科学省の水準とする台数に近づけるため、パソコンを導入（どうにゅう）するよう進めています。1年生から手軽にパソコンを使った授業ができる環境を早期に実現できるよう、より一層（いっそう）取組を進めていきます。			
その後の対応状況： パソコンを使った授業については、今後も計画的に授業を行うよう、教育委員会から働きかけや、先生方への研修会を引き続き行っていきます。またパソコンの台数については、文部科学省の水準の台数に近づけるよう今後も取り組みを進めていきます。			

担当部課：都市安全部（公園河川課）			
議員名	郡谷朋果	テーマ	公園を使いやすくすることについて
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
<p>質問（提案）：</p> <p>私は公園をみんなが使いやすくすることについて2つ提案があります。1つは、公園にフェンスをつけてもらいたいと思っています。なぜならボールで遊んでいる時に、遠くへ飛んでしまって道路に出てしまい、ボールを取りに行った人が「危ない!」と思ったことがあると、聞いたからです。けがや事故を少なくするために必要だと思います。もう1つは、公園にトイレをつけてほしいという事です。小さな公園や人が来ない公園にはトイレがないですよね。いつも、「トイレに行きたい」と思っても家に帰るのは大変だし、家が近い人にトイレを貸してもらうのも失礼なので、公園にトイレがあると誰にも迷惑をかけないし、大変ではないので公園にトイレがあるととても便利だと思います。公園が使いやすくなれば公園に来る人も多くなり、友達とも仲良くなり、運動にもなります。そして、地域の人も公園に来る回数や外出する回数も増えるかもしれません。</p>			
<p>答弁：</p> <p>まず、公園にフェンスをつけてもらいたいというご要望（ようぼう）についてですが、逆瀬台6丁目公園はブランコ、砂場などの遊具があり、植栽帯（しょくさいたい）、ベンチ、休憩所（きゅうけいじょ）などの公園施設も適正（てきせい）に配置（はいち）されている、地域の幼児から高齢者まで多様な世代が利用できるように造られた公園です。</p> <p>しかし、現状では野球やサッカーのようなボール遊びができる、まとまったスペースが無いため、ボール遊びのできる公園とするためには、公園のブランコや砂場などの配置を変えるなど、まとまったスペースを確保することが必要です。今回のご提案について、自治会にお伝えし、他の子どもたちの意見も聴き、地域全体のご意見としてまとめれば、市としても検討（けんとう）したいと思っています。</p> <p>次に、公園にトイレをつけてほしいというご要望については、現在、市内には約320の公園があり、その内、比較的（ひかくてき）規模（きぼ）の大きい、遠方（えんぼう）からの利用を想定した16の公園にトイレを設置（せっち）しています。逆瀬台6丁目公園は地域の方の利用を想定しているため、トイレを設置していません。トイレを造るためには、工事費と清潔（せいけつ）に保つための費用が沢山必要であり、実現は大変難しい状況ですので、市では公園近くのお店や学校、自治会館などのトイレの利用をお願いしています。</p>			
<p>その後の対応状況：</p> <p>既存の公園トイレの維持管理を継続するとともに、北雲雀きずきの森のような規模の大きな公園については、引き続きトイレの整備を行っていきます。</p>			

担当部課：学校教育部（教育研究課）

議員名	中村亜依未	テーマ	授業でのタブレット導入と使用について
-----	-------	-----	--------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は授業でのタブレット導入（どうにゅう）と使用について提案します。タブレットを使えば分かりやすく、興味を持って授業に取り組める子が増えるのではないかと考えました。また、これからの21世紀社会にはコンピューターを使える力が必要とされます。タブレットである程度、使えるようにしておけば社会に出たときに楽だと思えます。しかし、全教科をタブレットにしまうと表現力がなくなってしまうので国語や書写などはノートを使うなどし、各小学校に1クラス分ほどタブレットを導入して、効率よく授業で使用することを提案します。

答弁：

タブレットパソコンを活用した授業を進めることによって、個別学習として自らの疑問（ぎもん）について深く調べたり、自分に合った進度で学習したりすることが容易（ようい）になると考えられます。また電子黒板と一緒に使用することで、グループや学級全体での発表や話し合い活動で、お互いを高めあう学びができます。

現代社会では、タブレットパソコンなどが会社や家庭で日常的に使用されていますので、タブレットパソコンの導入は、基本的な操作など社会に出た時に必要な能力を育むことができます。

質問でも述べられているように、教育委員会としても、表現力を高めるために、ノートやプリントに書く活動も大切にしながら、授業でタブレットパソコンを効率的に使用することが大切であると考えています。

他市で導入され始めているタブレットパソコンですが、宝塚市ではまだ導入しておらず、導入を望む声は学校の先生からも多数寄せられています。

教育委員会としても、タブレットパソコンを活用することが児童生徒の皆さんが興味・関心をもって授業に取り組むことに有効に働くと考えていますので、タブレットパソコン導入に向けた取組を進めていきます。

その後の対応状況：

タブレットパソコンについては、予算を用意し、各学校、数台程度ずつですが2020年度から導入できるよう準備を進めています。今後もタブレットパソコンを用いてグループ学習や個別学習を行うために十分な台数が整備できるように、引き続き取組を進めていきます。

担当部課：管理部（施設課）

議員名	山下哲平	テーマ	学校の安全について
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： <p>僕は、学校の安全管理（あんぜんかんり）について提案します。周りの学校を見ていたら、柵が小さく、すぐ飛び越えられそうな所があり、防犯カメラも見ていて少ないように感じました。他に思ったことは、いつも安心しているのではなく常に危機感を持つことも大事だと思いました。そして、近くに不審者（ふしんしゃ）など知らない人がいたら、対抗できる体制を持つことも大事だと思いました。改善する方法は、防犯カメラをもっと設置して、柵に針や電流を流すか、柵を大きくしたらいいと思いました。あと、不審者に対抗できるような、棒や物などを置いたら、子どもたちの身を安全に守れると思いました。</p> <p>どうか学校の安全管理について改善をお願いします。</p>			
答弁： <p>学校の安全管理について、改善策（かいぜんさく）について検討（けんとう）しましたが、まず、柵に針をつけることは、学校の見た目に怖い印象を与えたり、子どもが触って怪我（けが）をしたりすることが考えられます。</p> <p>また、学校に限らず、建物の安全対策（あんぜんたいさく）として柵に電気を流すことは法律で禁止されています。柵を大きくすることは、地震や台風などで柵が倒れやすくなり、近くを通る人が怪我をする危険があります。それぞれ外部からの不審者対策には強力な方法ですが、不審者でない人に怪我をさせる可能性があり、学校ではできないものでした。</p> <p>宝塚市の市立学校では、これまで、全ての小・中学校に、防犯カメラを2台ずつ設置（せっち）したほか、出入口の多い学校では、カメラの台数を増やしたり、職員室に刺すまたを用意したり、幼稚園では、職員室で来客を確認してから、遠隔操作（えんかくそうさ）で門の鍵を開閉できるようにしたりしています。</p> <p>学校の安全対策については、子ども達の命を守っていくため、地域に開かれた学校づくりを進め、地域の方々の協力を得ながら、いろいろな方法を組み合わせて、これからも取り組んでまいります。</p>			
その後の対応状況： <p>2018年10月に、山手台小学校に防犯カメラを1台増設しました。</p>			

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課）

議員名	林知里	テーマ	音響式信号機をつけることについて
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は信号機を音響（おんきょう）式信号にしてほしいです。なぜなら、小学校の近くの信号機は音響式信号ではなくて、目の不自由な方が、横断歩道の前でまだかなまだかなとキョロキョロしていたのをみたことがあるので、目の不自由な方も安全安心に過ごしてほしいから音響式信号をつけてほしいです。私たちが登下校する道には音響式信号が少ないので地域の方々もいっぱい通る道なので危ないから音響式信号を1個でも多くつけてほしいです。			
答弁： 音響式信号機は、警察庁の設置基準（せっちきじゅん）により、視覚障がい者の利用が多い、駅、市役所、盲（もう）学校、リハビリテーションセンター、病院などの周辺にある横断歩道に優先的（ゆうせんてき）に設置することとされており、市内には、現在24箇所、安倉北3丁目には1箇所設置されています。 ただ、音響式信号機は、昨年3月末現在で全国的に約23,000基と少なく、また設置にあたり地域の方々の理解や同意も必要です。 兵庫県警察本部交通規制課（ひょうごけんけいさつほんぶこうつうきせいか）では、年に一回、年末頃に各警察署に設置要望（せっちようぼう）を聞いています。宝塚市が宝塚視力障害者協会に設置希望箇所（せっちきぼうかしょ）を聞きましたところ、今年は売布束の町にある福祉コミュニティプラザ、通称（つうしょう）プレミア前を希望されましたので、宝塚警察署にその要望（ようぼう）をしているところで また、安倉北小学校の通学路でも障がいのある方が安心して通行できるよう音響式信号機を設置した方が良いと思われる箇所がありましたら、宝塚市は宝塚視力障害者協会とも調整して宝塚警察署に要望していきます。			
その後の対応状況： 福祉コミュニティプラザへの音響式信号機の設置につきましては、宝塚警察署を通して兵庫県警察本部へ要望しました。			

担当部課：管理部（施設課）

議員名	濱田望来	テーマ	トイレの洋式を増やすことについて
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は、1年生のトイレの洋式を増やしたらいいと考えています。私が1年生だったとき、トイレが混んでいて和式しか空いていなかったのが仕方なく和式に入るとあまり慣れていなかったのが時間がかかり、授業に遅れてしまいました。1年生は当然、2年生はできる人は少ないと思うので、なるべく1、2年生のトイレぐらいは洋式3つ、和式2つぐらいにはしてほしいと思いました。			
答弁： 1年生のトイレの洋式を増やすことについてですが、宝塚市の市立学校では、洋式化率90%を目指し、和式トイレを洋式トイレに取り換（か）える計画をたて、工事を順次進めています。 すみれが丘小学校のように、学校が作られてから年数が経つ学校については、トイレの傷みが大きいので、トイレ全体の改修にあわせて、洋式トイレへ交換する方法を採っています。 トイレの改修（かいしゅう）には多くの費用がかかるため、一度には無理ですが、国に対して、費用を補助してもらえよう要望（ようぼう）しつつ、少しでも早く洋式トイレの数を増やしていきたいと思っています。			
その後の対応状況： 2018年4月1日から2019年2月1日までの間に、17校の小中学校で工事と修繕（しゅうぜん）を行い、計113箇所洋式トイレを増設しています。			

担当部課：環境部（環境政策課）、産業文化部（商工勤労課、農政課、北部振興企画課）

議員名	横井乃々花	テーマ	西谷地区の自然・宝塚の活性化について
-----	-------	-----	--------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、もっと西谷地区の自然と触れ合う機会があってほしいと思います。そこで私は、西谷地区のゴミ拾いや田植え体験、雑草抜きなど自然を守る活動を行い、参加した人には市内のスーパーやお店のクーポン券や電車に乗れる切符をプレゼントするイベントを開催すると良いのではないかと考えました。高齢者に頼らず、もっと自然を守る活動を若い人たちがしなければならぬと思います。今の状況をよくするためには今回の提案が良いと思いますが、難しいのであれば、少しでもいいので何らかの形で西谷地区に市民や観光客を呼びこみ、西谷地区の自然を守る活動や、西谷地区の自然を体いっぱい感じられるような取り組みをしていただきたいと思います。

答弁：

ご提案を実現させるためにはお店や鉄道会社の協力が必要であることなどの問題がありますが、西谷地区の自然保護や活性化につながる取組を、市民や事業者の皆さんと一緒に考えたいと思います。現在、西谷地区では、田植えや稲刈り、サツマイモの植え付けと収穫などの農業体験や星空観察（ほしぞらかんさつ）、野草や野鳥（やちょう）の観察会、飯ごう炊飯など様々な自然体験ができるよう、地域の皆さんが活動を行っています。

また、宝塚市と市内の会社や環境ボランティア団体など、いろいろな立場の人が集まって、「環境都市宝塚推進市民会議（かんきょうとしたからづかすいしんしみんかいぎ）」というグループを作り、環境を守り育てる活動をしています。

地域の美化と併せて自然環境を維持する活動としては、市内一斉清掃（しないいっせいせいそう）や西谷地区の不法投棄防止（ふほうとうきぼうし）のためのパトロールやゴミ拾いを行っています。

また、今年の秋に市内に生育・生息する生き物の実態（じったい）を調べるため、西谷の宝塚自然の家で、昆虫採集（こんちゅうさいしゅう）を行い、どのような昆虫が生息しているかを調査しようとしています。

これらは一例ですが、このような企画や活動を実施し、若い人が参加することで、西谷地区の自然と触れ合い、自然を守る活動を行うことに繋（つな）がっていくと考えています。これらの情報は、市の広報誌（こうほうし）やホームページ、SNSなどでお伝えしています。そして、より多くの市民や観光客が西谷地区に訪れるよう、今後もいろいろな取組を進めて西谷地区の自然を守りながら、宝塚市の活性化に繋げていきたいと思っています。

その後の対応状況：

環境政策課では、8月と10月に、西谷にある宝塚自然の家で「むしとりペナントレース」というイベントを行いました。約100名の参加があり、専門の先生の話聞いたあとに昆虫採集を行い、昆虫のことや西谷地区の自然、そして自然とふれあうことの大切さについて体験し、学びました。また、このことを皆さんに知ってもらうため、このイベントを、市の広報誌やホームページ、Facebookに載せています。

今後も、西谷の自然に触れ合ってもらえることのできるこのような機会を「環境都市宝塚推進市民会議」のボランティアの方々をはじめ、色々な人や団体と協力しながら作っていきたいと思います。

環境部（環境政策課）

2018年12月に、西谷地区の自然に触れながら、獲れたての農産物のおいしさを味わってもらうために、市内の親子を対象として、生産者が自ら指導して、白菜やキャベツなどの冬野菜の収穫体験を実施しました。また、11月には、西谷地区の秋の実りを迎えて、その収穫を祝う西谷収穫祭を開催し、都市住民との交流を深め、地域の活性化を図りました。

いただいた提案を実現させるためには、お店や鉄道会社の協力が必要であることなどの問題がありますが、西谷地区の自然保護や本市の活性化につながる取組を、市民や事業者の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

産業文化部（商工勤労課、農政課、北部振興企画課）

担当部課：都市安全部（公園河川課）

議員名	新城璃乃亜	テーマ	河川敷でのバーベキューについて
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 宝塚市には自然いっぱいの河川敷（かせんじき）があるのですから、バーベキューができるスペースを設けてほしいです。このような場所を設ける事で、家族や友達との良い思い出がつかれたり、宝塚市民同士でのコミュニケーションをとれたりと他にもたくさんのメリットがあります。ですが、ゴミを捨てない人がいる事や、うるさくて近所迷惑（めいわく）になってしまうというデメリットもあります。そのような事を改善するためには、しっかりとルールを守ってもらい、1か月に1回ほどのペースで宝塚市民の方達に掃除などをお手伝いして頂くなど色々考えてみてはどうでしょうか。みんなで協力して、掃除をする事で、町がとても美しくなり、宝塚に来て下さる方も増えてくるかもしれません。このように、河川敷でバーベキューができるようになればたくさんの自然や人と関わる事ができ、アクセスしやすいため、多くの人達がバーベキューをしにきてくれると思います。町がよくなるためには、市民が過ごしやすく、様々な人達と関われる場所が必要です。			
答弁： 武庫川河川敷でバーベキューができるスペースを設けてほしいというご要望（ようぼう）につきましては、都市緑地（としりょくち）として指定している、武庫川の市役所横河川敷を含む、宝塚市の公園では、火災や周辺への迷惑を防止する観点（かんてん）から、市の決まりごとである都市公園条例（としこうえんじょうれい）で火気（かき）の使用を禁止しています。 一方、武庫川河川敷の都市緑地の指定のない場所においても、バーベキューができるスペースを設けると、バーベキューの臭いや煙、人の騒（さわ）ぎ声やゴミのポイ捨てなどで、近くに住んでいる方をはじめ、散歩に来られた方やスポーツなどのレクリエーションに来られた方に迷惑をかけることが多くあります。 また、武庫川河川敷は猪名川や淀川の河川敷のように広くなく、住宅が近接（きんせつ）していることから、武庫川河川敷にバーベキューができるスペースを設けることは難しいと思います。 県内各地で同様の要望があるように聞いていますが、マナーの悪さから、残念ながら多くの場所で禁止されています。 宝塚市の魅力（みりょく）でもある美しい山並みと市の中心を流れる風情（ふぜい）豊かな武庫川河川敷に親しんでいただくため、地域の方の協力を得ながら利活用促進（りかつようそくしん）に取り組み、皆さんが思い出づくりができる水辺空間（みずべくわかん）にしていくために一生懸命（いっしょうけんめい）頑張ります。			
その後の対応状況： 武庫川河川敷公園をはじめとする公園内でのマナー啓発に努め、皆さんにとって過ごしやすい場所となるよう努力していきます。			

担当部課：管理部（施設課）

議員名	崎山大志	テーマ	学校の内装について
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： <p>私たち南ひばりガ丘中学校からは、学校の内装についてです。特に、学校全体の壁、廊下の床、教室の欠けているタイル、雨漏（あまも）りの4点です。現状ですが、壁の件はペンキの塗り直しが必要です。塗装が剥がれてしまいコンクリートが丸見えの状態、見ていてきれいとは言えません。また廊下の床については、空気が入り膨らんでしまっている状態です。歩いていると足が引っかかることもあり、床拭き掃除などもしにくいです。教室の欠けているタイルについては、床タイルの一部張り替えをお願いします。これも床拭き掃除の際に危険で、実際に指が引っ掛かって転倒し頭を打ってしまった人もいます。その他にも、授業中に机がガタガタ揺れ、授業に集中できないことにつながってしまいます。最後に、校舎の4階で雨漏りしているところがあるので、修繕（しゅうぜん）をお願いします。</p>			
答弁： <p>宝塚市には、古くなって傷みの大きな学校がたくさんあり、優先順位（ゆうせんじゅんい）を付けながら大規模（だいぎぼ）な改修（かいしゅう）工事に取り組んでいます。南ひばりガ丘中学校は、16年前に大規模な改修工事をし、また、2016年度には、老朽化（ろうきゅうか）が著（いちじる）しかった空調設備を新しくしたところなど、改修工事の次の順番が回ってくるまでの間は、小さな不具合や、壊れたところなどは、日頃の点検で見つけて、その都度（つど）修理をしていきます。現地を確認したところ、南校舎4階廊下の床シートが膨らみ、3階、4階教室の床タイルが割れている箇所（かしょ）が多数見つかりました。早ければ今年の冬休みから、順次修理をしていきたいと思えます。</p> <p>4階の階段室付近の雨漏りについては、現在原因を調べているところで、修理が完了するまでもう少し時間がかかる見通しです。壁のペンキの剥（は）がれについては、それぞれの学校でペンキの塗（ぬ）り直しをすることになっていますので、学校へ伝えておきました。</p> <p>これからも、教育委員会と学校とで協力して、不具合や故障箇所の修理をしていきたいと思えます。</p>			
その後の対応状況： <p>2018年9月に4階天井の雨漏りの修理を、11月に美術室と多目的室の床タイルの一部貼り替えを、12月に4階廊下床シートの貼り替えを行いました。今後、3・4階の普通教室の床タイルの貼り替えを行っていきます。</p>			

担当部課：学校教育部（学校教育課）

議員名	田村 慧智	テーマ	科学講演会について
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私が提案することは、小中学生が科学に興味を持つきっかけになる科学講演会を開いてはどうかというものと、作文で入賞すると特別な大学や企業の見学に連れていってもらえる取り組みを行ってはどうかというものです。実験をともなった講演会や科学の現場を見て、将来の可能性を持つ子どもたちに、科学の魅力（みりょく）を実感して欲しいと思います。そのために、ただ講師が話すだけでなく、小中学生が実験等で自分たちで本物を体感できるような、科学への関心、探求心（たんきゅうしん）、好奇心（こうきしん）を刺激する講演や大学、企業の見学を是非この宝塚で行っていただきたいと思います。			
答弁： 将来の可能性を持つ子どもたちに科学の魅力を実感してもらうため、科学実験の現場を見学したり、科学講演会に参加したりすることは、たいへん有意義（ゆういぎ）な取組であると考えています。 宝塚中学校や宝梅中学校の生徒も参加し好成績を修めたことのある「数学・理科甲子園ジュニア大会」では、「科学の甲子園ジュニア全国大会」を目指して、兵庫県の数学・理科好きの中学生が集まり、実技競技で科学の技術を競い合います。併せて、大会プログラムの中の研究者による講演会で学ぶことができます。 その他にも、中高生の理科教育の振興（しんこう）を目的とした、日本学生科学賞兵庫県コンクールや、一般の人が科学に触れる機会として、兵庫県内にある理化学研究所（りかがくけんきゅうじょ）放射光科学研究（ほうしゃこうかがくけんきゅう）センター スプリング8では、施設（しせつ）公開や見学会が開催（かいさい）されています。 最先端の科学の現場や科学講演会に参加する機会を多く持ってもらおうよう、市教育委員会から各学校を通してこのようなイベントや講演会、コンクールなどを積極的に紹介してまいります。 2015年に宝塚市において開催された、ロボットクリエイター高橋智隆（たかはしともたか）さんの講演会のような、子どもたちが科学に興味を持ち、探究心や好奇心を高めることのできる体験型の実験や講演会を、今後も宝塚市で開催（かいさい）できるよう取り組んでまいります。			
その後の対応状況： 今年度は「サイエンス・トライやる」事業を活用し、小中学校各1校でスペシャリストによる特別授業を実施しました。中学校では、病院長による「食と健康」について、小学校では、元鉄道会社の電気技術部の方による「電磁石の仕組み」についての授業を実施しました。今後もこのような事業や企画を各学校に紹介し、幅広い視点からの学びができるよう取り組んでまいります。			

担当部課：環境部（環境政策課）

議員名	山本真衣	テーマ	ペットボトルキャップ回収の活性化について
-----	------	-----	----------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、教室や食堂前にあるペットボトルのごみ箱の横に「キャップ回収BOX（ボックス）」を作りたいと考えています。キャップ回収BOXは大型スーパーや工事現場に設置されています。キャップを集めることで世界の貧しい人々を救うワクチンにすることが出来ます。キャップは、回収業者によってリサイクル資源として売られ、売られた際の売却益（ばいきゃくえき）が「JCV、世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付され、UNICEFと連携して、世界のワクチン工場へワクチンを発注するという仕組みです。学校としても宝塚市としても積極的にこの活動をし、世界の子どもたちを助ける手立てになれば良いなと思います。

答弁：

ご提案されている回収したキャップをワクチンに換（か）える取り組みは、宝塚市内のNPO法人が、キャップを回収し、再資源化（さいしげんか）した時の売却益をJCV（世界の子どもにワクチンを日本委員会）へ寄付（きふ）する活動を行っていましたので、宝塚市もこの活動の趣旨（しゆし）に賛同（さんどう）し、本庁舎を回収場所の一つとしてこれまで協力してきました。

しかし、キャップの回収と買取りを行っていた事業者が買取りをやめたことを受け、NPO法人は、別の買取り事業者を探されましたが、見つからず2018年7月11日付で活動廃止（はいし）の決定をされました。これに伴って、8月末で本庁舎での回収も取りやめることとなりました。

宝塚市では、この活動に協力することで、ごみの分別（ぶんべつ）による再資源化と寄付活動を行うと同時に、マイボトルなどを携帯することで、ごみの減量化（げんりょうか）をお願いしてきました。

今後、使用後のペットボトルから分別されたキャップをワクチンに換えることはできなくなりましたが、ペットボトルとキャップを分別することは、クリーンセンターにおける「ごみの再資源化」につながりますので、引き続きご協力いただきたいと思います。

また、宝塚市としては分別だけでなくマイボトル持参などによるごみの減量化についても啓発（けいはつ）を続けてまいります。

ペットボトルのキャップ回収については、回収業者にキャップを直接持参するなど、一定の条件はありますが、JCVとタイアップ協力を結んでいる回収事業者もあるため、一度市役所にご相談をいただければ、回収業者探し等のお手伝いをさせていただきます。

その後の対応状況：

市役所では、2018年8月末をもって本庁舎でのペットボトルの回収を終了しました。

その後は、ペットボトルとキャップを分別することで出来る「ごみの再資源化」と、マイボトル持参などによる「ごみの減量化」に取り組んでもらえるよう市民の皆さんにお願いしています。

担当部課：都市安全部（道路政策課）

議員名	細見 菜由	テーマ	駅周辺の交通渋滞について
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： <p>朝の通学時に、バスの遅延によって学校に遅れそうになることや、土日は終日混雑しており約束の時間に遅れてしまうことがあります。特に平日の朝は自家用車で送り迎えをする人が多いので渋滞が発生しています。渋滞の原因はたくさんあります。一つは、歌劇場前の交差点の混雑です。二つ目は、すみれが丘に向かう間にあるJRの踏切です。最後に、宝塚駅のJRから阪急のほうに向かって渡るところの横断歩道です。バスの本数が朝は多いうえに、送り迎えの自家用車が横断歩道付近で止まったりするのでとても混雑しています。そこに横断歩道があると歩行者を優先して車も止まり、さらに混雑してしまいます。以上のことから、私が提案するのは宝塚駅に自家用車の送迎用のスペースを設けて、バスの運行を妨（さまた）げないようにし、歩行者が安心して横断歩道を渡れるようにすることです。また、踏切の遮断（しゃだん）時間を少しでも短くすることです。</p>			
答弁： <p>宝塚駅前広場は2つの鉄道会社の駅が隣接（りんせつ）し、多くのバスの発着地点でもあることから、朝の通勤・通学の時間帯には、多くの車両が駅前広場周辺に集中している状況です。</p> <p>このため、宝塚駅前広場は2011年度に公共交通の利用をスムーズにするため、JR宝塚駅の橋上化（きょうじょうか）をはじめ、バス、タクシーの乗降場（じょうこうじょう）の再配置や、障害者用停車施設を配置するなど、整備（せいび）を行ってきました。その整備に併せ、駅前広場中央部分の駐車スペースを16台に増設（ぞうせつ）したり、駅前広場西側に、自家用車乗降スペースを整備するなど、混雑（こんざつ）を避ける対策を行ってきました。現状では駅前広場のスペースに限りがあり、新たに自家用車送迎用の乗降車場を設置することは困難です。整備した乗降スペースを利用していただくよう、マナー向上に向け看板（かんばん）の設置（せっち）やPR（ピーアール）などを行っていきます。</p> <p>また、単に施設整備をするだけでなく、バス路線の新設など、公共交通を利用しやすくすることにより、駅への移動方法を自家用車からバスへと変えていく取り組みが必要と考えています。</p> <p>次に、歩行者が安心して横断歩道を渡れるようにすることについては、ユニバーサルからJR宝塚駅を經由（けいゆ）して、阪急宝塚駅を結ぶ横断歩道橋を利用していたくのが最も安全に通行していただけることだと考えています。このため、歩行者に歩道橋を利用してもらえるよう検討（けんとう）してまいります。</p> <p>次に、踏切（ふみきり）の遮断時間についてですが、これまで踏切の遮断時間を短くする取り組みをJRとともにしてきました。この踏切には「賢（かしこ）い踏切」といって、列車の速度を判断して遮断時間を短くするシステムが導入（どうにゅう）されています。踏切を安全に安心して通行するために最低限必要な時間ですので、ご理解いただくようお願いいたします。</p> <p>しかし、JRの宝塚駅と阪急宝塚駅間の横断歩道を歩行者が散らばって通行し、送迎用の自動車との距離が近くて危険だということは重々（じゅうじゅう）承知（しょうち）しています。より危険の少ないターミナル駅として、市も公共交通機関などと協議（きょうぎ）をしながら安全なターミナル駅にしていく努力をしたいと思っております。</p>			
その後の対応状況： <p>市のホームページにおいて、歩行者はJR宝塚駅の東側にある踏切道を渡らずに、各電鉄会社の改札口などへ行き来できることと、駅周辺でのマイカーによる乗り降りは、駅前広場中央部にある駐車場を利用するよう周知しました。現地においても周知看板の設置に向け、設置個所などの調整を行っています。また、駅前広場内にある横断歩道につきましては、安全に横断できるよう警察などの関係機関と改良案を検討しています。</p>			